

# 日本社会専門講義レジュメ

## 1 戦後改革の時代 戦前日本社会の特徴

### 1. 封建社会から資本制社会へ

- 1.1 封建社会とは？
  - 1.1.1 江戸時代の村の暮らし
    - 水と草
    - 封建的共同体
  - 1.1.2 武士と農民
    - 士農工商
    - 身分制的支配
  - 1.1.3 経済の仕組み
    - 領主の経済
    - 農民の経済
- 1.2 資本制社会とは？
  - 1.2.1 共同体のない社会
    - 平等原理より競争原理
  - 1.2.2 利潤の秘密
    - 労働力の商品化
  - 1.2.3 市場経済
    - 需要と供給の調整の仕組み

### 2. 明治維新

- 2.1 身分社会の解体
  - 四民平等
  - 自由な経済社会へ
- 2.2 土地所有制度の変革
  - 地租改正
  - 秩禄処分
- 2.3 中央集権体制の確立

### 3. 資本主義の発達

- 3.1 近代工業の移植
  - 製糸業と綿紡績業
  - 重工業
- 3.2 農業と農村
  - 寄生地主
- 3.3 消費生活の近代化
  - 西洋風の衣食住

### 4. 近代的政治体制の発達と限界

- 4.1 帝国憲法の制定
  - 法治国家
- 4.2 大正デモクラシー
- 4.3 天皇制ファシズム

## 1 戦後改革の時代 戦後の政治・社会改革

### 1. 日本の敗戦

- 1.1 日本はなぜ戦争をしたのか？
  - 日清戦争・日露戦争

- 第1次世界大戦
  - 満州事変・中日戦争
  - 第2次世界大戦
- 1.2 日本はなぜ戦争に負けたのか？
  - 基礎的生産力の格差
  - 軍事戦略の失敗
  - 「大東亜共栄圏」の虚妄
- 2. 連合国の占領
  - 2.1 連合国の占領政策
    - 日本の非軍事化
    - 日本の民主化
  - 2.2 対日講和条約 1951年調印・1952年発効
    - 無賠償講和
- 3. 憲法の改正
  - 3.1 大日本帝国憲法（1889年）の性格
    - 欽定憲法
    - 天皇主権
  - 3.2 日本国憲法（1946年）の性格
    - 非武装平和国家
    - 国民主権
    - 基本的人権
      - 自由権
      - 社会権 生存権・労働基本権
      - 参政権
      - 受益権 裁判を受ける権利・請願権
- 4. 諸制度の改革
  - 4.1 抑圧機構の解体 1945-1947年
    - 陸軍省・海軍省・内務省の廃止
    - 治安維持法などの廃止
    - 警察制度の改正
  - 4.2 民法の改正 1947年
    - 家督（長男単独相続制）の廃止
    - 個人の尊厳・男女平等
  - 4.3 教育基本法の制定 1947年
    - 6・3・3・4制

## 1 戦後改革の時代 戦後の経済改革

- 1. 財閥解体
  - 1.1 財閥とは？
    - 江戸時代の両替商
    - 明治の政商
    - 財閥 = コンツェルンの形成
  - 1.2 財閥本社の解体と財閥家族の排除
    - 子会社の株式所有・トップ人事決定権・重要事項決定権を持つ本社の解散
    - 財閥家族の株式売却・役員引退・資産の売却
    - 財産税の課税
  - 1.3 大持株会社の支配力削除
    - 持株の売却

- 兼任重役制の廃止
- 1.4 過度経済力集中排除法  
大企業の分割
- 1.5 独占禁止法  
独占の再発防止
- 2. 農地改革
  - 2.1 寄生地主とは？  
江戸の地主と近代の地主  
自作農創設政策  
戦争と寄生地主
  - 2.2 第1次農地改革  
不在地主の土地と在村地主の5haを越える土地の小作農への売却強制
  - 2.3 第2次農地改革  
不在地主の土地と在村地主の1haを越える土地の政府への売却強制
- 3. 労働改革
  - 3.1 戦前の労働組合は？  
労働3権 団結権・団体交渉権・争議権  
労働運動の弾圧  
労働組合法案の流産
  - 3.2 労働3法の制定  
労働組合法  
労働基準法  
労働関係調整法
- 4. 戦後改革は日本をどう変えたのか？
  - 4.1 非軍事化は成功したのか？
  - 4.2 民主化は成功したのか？
  - 4.3 経済成長に役立ったのか？

## 2 高度経済成長の時代 高度経済成長

### 1. 資本主義はなぜ速く経済成長するのか

- 1.1 共同体が解体した社会  
平等原理と競争原理
- 1.2 社会的余剰が利潤になる社会  
封建地代と利潤のちがい
- 1.3 市場が中心になった社会  
社会的分業
- 1.4 経済成長の秘密  
社会的余剰の貯蓄と投資

### 2. 戦前日本の資本主義はなぜ速く成長したのか

- 2.1 明治維新の国際環境  
パックス・ブリタニカ  
基軸：イギリス  
周辺：アメリカ・ドイツ・フランス・ロシア  
外縁：植民地・従属地域
- 2.2 資本主義の自由主義時代  
産業革命

- 軽工業中心の工業構造
  - 2.3 日本の工業化
    - 軽工業の発達 - 民間企業が主導
      - 綿工業・製糸業
    - 重工業の発達 - 政府が主導
      - 鉄鋼業・造船業・軍需工業
  - 2.4 金融組織の発達
    - 貨幣制度の近代化
      - 日本銀行
    - 銀行制度の移植
      - 国立銀行条例
- 3. 戦後日本の資本主義はなぜ高度成長したか
  - 3.1 戦後の国際環境
    - パックス・アメリカーナ
    - IMF・GATT 体制
  - 3.2 技術革新
  - 3.3 戦後改革の成果
- 4. 高度経済成長をもたらしたもの
  - 4.1 大衆消費社会
  - 4.2 公害列島

## 2 高度経済成長の時代                    技術革新

### 1. 技術革新の波

- 1.1 農業革命
  - 狩猟採取経済からの脱却
- 1.2 産業革命
  - 機械とは？ 原動機 + 伝導装置 + 作業機
  - 綿工業中心の時代
  - 重工業中心の時代 汽船・汽車、重量鋼材
  - 耐久消費財中心の時代 自動車・家電、石油化学
- 1.3 情報革命
  - 半導体・コンピュータ
  - インターネット

### 2. 戦前日本の技術革新

- 2.1 江戸時代からの技術蓄積
  - 製鉄技術
  - からくり人形
  - 織物業
- 2.2 先進国からの技術移植
  - 綿工業・製糸業
  - 重工業 軍需工業、鉄鋼業、造船業、鉄道車輛製造業
  - 石炭鉱業
- 2.3 独自の技術開発
  - 自動織機
  - 味の素
  - 養殖真珠

### 3. 戦後日本の技術革新

- 3.1 戦前から発達していた産業での技術革新
  - 鉄鋼業
  - 造船業
  - 石炭鉱業
- 3.2 戦前は未発達だった産業の技術革新
  - 家電製品
  - 自動車工業
- 3.3 世界的にも戦後発達した産業の技術革新
  - 石油化学工業
  - エレクトロニクス
  - 原子力発電
- 4. 技術革新がもたらしたもの
  - 4.1 大量生産体制と大量消費・大量廃棄
  - 4.2 熟練技術の衰退 人間労働の役割低下

## 2 高度経済成長の時代 大衆消費社会

### 1. 消費の歴史

- 1.1 生命維持のための消費
  - 狩猟採取経済
- 1.2 伝統的生活維持のための消費
  - 生活文化の形成
  - 呪術・宗教・戦争と消費
- 1.3 威信のための消費
  - ポトラッチ
    - 北米北西海岸部に住むアメリカ・インディアンの間で行われた競争的な贈与と交換を伴う痢宴。
- 1.4 消費社会の形成
  - 都市と消費
  - Conspicuous Consumption 衛示的消費 Thorstein Veblen (1857 - 1929)
- 1.5 耐久消費財の普及
  - 家電・乗用車
- 1.6 記号論的な消費
  - 差異化 J.ボードリヤール

### 2. 戦前日本の消費社会

- 2.1 江戸時代からの伝統
  - 「はれ」と「け」
  - 遊びの世界
- 2.2 欧米からの衝撃
  - 鹿鳴館時代
  - 明治期の消費パターン
- 2.3 大衆消費社会の萌芽
  - 洋風化
  - 大量消費

### 3. 戦後日本の消費社会

- 3.1 廃墟の生活
  - 配給・バラック
  - 闇市
- 3.2 アメリカへの憧れ

- チョコレートとチューインガム
- ハリウッド映画と野球
- 3.3 大衆消費社会
  - 耐久消費財
  - ファースト・フード、ジャンク・フード。
  - キッチンと記号的消費
- 4. 大衆消費社会がもたらしたものの
  - 4.1 欲望の無限拡張 商品の物神化
  - 4.2 個化と人間関係の希薄化

### 3 「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われた時代 日本的経営

- 1. 低成長期の相対的高成長
  - 1.1 高度経済成長の終焉
    - ドル・ショック (1971年)
    - オイル・ショック (1973年)
  - 1.2 スタグフレーション 不況と物価上昇の併存
    - 基礎資源価格の上昇
    - 賃金爆発 労働力供給不足
  - 1.3 良好な日本のパフォーマンス
    - 強い国際競争力
    - 「ジャパン・アズ・ナンバーワン」(1979年、E.Vogel)
  - 1.4 日本的経営と日本的生産方式
- 2. 資本主義と企業経営
  - 2.1 企業の形態
    - 個人企業と会社企業
    - 合名会社・合資会社・株式会社
    - 私企業と公企業
  - 2.2 経営管理
    - 所有と経営の分離 経営者革命
    - コーポレート・ガバナンス
  - 2.3 労働者管理
    - 労働者の支配 「失業の恐怖」
    - 労働者の企業内包摂 労資共同決定 会社主義
- 3. 日本的経営 - 企業内関係
  - 3.1 終身雇用制
    - 戦前からの慣習
  - 3.2 年功序列型賃金体系
    - 合理的側面
  - 3.3 企業別労働組合
    - 職員・工員の同権化
    - 産業報国会の遺産
- 4. 日本的経営 - 企業間関係
  - 4.1 法人間相互持株制
    - 法人資本主義
  - 4.2 長期相対取引
  - 4.3 企業グループと系列

- 4.4 メインバンク制
- 5. 日本的経営の功罪
  - 5.1 経済成長の促進要因
  - 5.2 「社畜」化

### 3 「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われた時代 日本的生産方式

- 1. 生産方式の歴史
  - 1.1 手工業的生産の時代
    - 職人的熟練・工場内分業
  - 1.2 機械を用いる生産の時代
    - 労働の単純化・労働時間の延長
  - 1.3 大量生産の時代
    - フォード・システム
    - 部品の規格化・流れ作業
    - テイラー・システム
    - 動作分析・出来高払い賃金
  - 1.4 多品種生産の時代
- 2. 日本的生産方式の形成
  - 2.1 アメリカ的大量生産方式の導入
    - 規格化 JIS 規格
  - 2.2 アメリカ的品質管理方法の導入
    - QC Quality Control
  - 2.3 アメリカ的生産性向上運動の導入
    - 日本生産性本部
  - 2.4 品質管理・生産性向上方法の日本化
    - QC サークル
    - カイゼン提案制度
- 3. 日本的生産方式の確立
  - 3.1 組立産業の在庫管理問題
    - 工場立地の制約、下請け企業との関係
  - 3.2 多品種生産問題
    - 単流生産と複流生産
  - 3.3 トヨタ生産方式
    - ジャスト・イン・タイム方式、カンバン方式
    - Lean Production System
  - 3.4 多能工の養成
    - ジョブ・ローテーション、オン・ザ・ジョブ・トレーニング
    - 多工程持ち、段取り替え時間の短縮
    - TQC Total Quality Control
  - 3.5 製品開発の短期化
    - 設計段階からの下請け企業参加
- 4. 日本的生産方式の功罪
  - 4.1 高品質低コスト
  - 4.2 新製品開発力に弱点

### 4 バブルの時代 バブル経済

## 1. 世界経済の変化

- 1.1 曲がり角の 1970 年代
  - IMF 体制の変質 変動相場制の時代
  - 資源価格の上昇
- 1.2 1980 年代の新潮流
  - サッチャー首相の登場 1979 年
  - レーガン大統領の登場 1981 年
- 1.3 基軸通貨ドルの謎
  - 三つ子の赤字
  - 国際収支
  - 財政収支
  - IS バランス

## 2. プラザ合意

- 2.1 ドル高抑制の国際合意 1985 年 9 月
  - 協調介入
- 2.2 円高の意味
  - 輸出依存度
  - 貿易摩擦
  - 前川レポート 1986 年 4 月
- 2.3 円高不況対策
  - 公共投資
  - 金利

## 3. バブルの発生

- 3.1 過剰流動性
  - マネーサプライの増加
- 3.2 物価の安定
  - 消費者物価指数
  - 卸売物価指数
- 3.3 資産価格の急騰
  - 株式価格
  - 土地価格
- 3.4 マネーゲーム
  - 金融自由化
  - 円転換規制廃止 1984 年
  - ビッグ・バン 1986 年
  - デリバティブズ 金融派生商品
  - エクイティ・ファイナンス
  - 株式時価発行
  - 転換社債
  - ワラント債
  - 財テク

## 4. バブルの時代                   モノ造り・カネ造り

### 1. 資本主義の本性

- 1.1 商品の本性
  - 商品の 2 重性 使用価値と交換価値
- 1.2 貨幣の本性

- 貨幣の出自 一般的等価物
- 貨幣の物神性
- 1.3 資本の本性
  - 自己増殖する価値
  - 資本の商品化と物神化 擬制資本
- 2. アメリカ資本主義の本性
  - 2.1 生まれながらの資本主義
    - 前近代の欠如
    - 独立革命 1776年 人工的国家形成
  - 2.2 暴力性と民主性
    - 建国いらいの暴力性
    - 先住民族の排除、フロンティアの争奪合戦 西部劇
    - 南北戦争、ギャング
    - ライフル協会
    - 多角的利害対立とその調整の仕組み
    - 民主主義、連邦制
    - 国際関係への姿勢
    - モンロー主義 1823年、孤立主義と国際主義
    - デモクラシーの帝国
  - 2.3 効率性と投機性
    - 労働力不足経済 労働生産性の重視
    - 農地投機・商品投機・証券投機
    - アメリカン・ドリーム
- 3. 日本資本主義の特性
  - 3.1 前近代の陰
    - タテ社会とムラ社会
  - 3.2 後発性
    - 開国時点の遅れ 戦後時点の遅れ
    - モノ造り優先
  - 3.3 政府の介入
    - 戦時統制
    - 護送船団方式
  - 3.4 国際感覚の弱さ
    - アメリカへの依存
    - 自由化の遅れ

## 5 平成不況の時代 バブルの崩壊

### 1. 資本主義とバブル

- 1.1 景気循環とは？
 

在庫循環	キッチンの波動	40ヶ月
設備投資循環	ジュグラの波動	10年
建設循環	クズネッツの波動	20年
技術革新循環	コンドラチェフの波動	40~60年
- 1.2 恐慌はなぜ起こるのか？
  - マルクスの説明
  - 宇野弘蔵の説明
- 1.3 バブルはなぜ起こるのか？
  - 先物取引・先物市場の役割

## 投機

### 1.4 バブルはなぜ崩壊するのか？

チューリップ恐慌 1637年 南海泡沫事件 1720年

## 2. 日本のバブル崩壊

### 2.1 金融引き締め

公定歩合の引き上げ

1989年10・12月、1990年3・8月

株価の崩落 '89年12月 3万8915円 '02年12月 8578円

### 2.2 土地取引の規制

日本人の土地信仰

地価抑制政策

地価の崩落 '90年100 '01年3月33.1

### 2.3 資産の減価

東証株価総額 '89年606兆円 '02年248兆円(358兆円減)

地価総額 '89年2136兆円 '02年1350兆円(786兆円減)

## 3. 日本経済の長期停滞

### 3.1 経済成長率の鈍化

「日本病 *nipponensis*」?

### 3.2 バブル後遺症

不良債権・債務 金融システムの不安定化・弱体化

1995年コスモ信用組合・兵庫銀行・住宅金融専門会社 96年日栄ファイナンス 97年北海道拓殖銀行・山一証券 98年日本長期信用銀行・日本債券信用銀行・日本リース 2000年千代田生命・協栄生命

不良債権 '02年3月末107兆円 償却済み累計90兆円

Cf. 金融機関貸出残高437兆円 GDP497兆円(2001年度)

### 3.3 設備投資の減退

設備過剰(稼働率指数 '90年100 '00年86)

### 3.4 消費の減退(消費性向'90年75.2 '01年71.4)

不況 雇用不安(失業率'90年2.1% '02年5.6%) 消費の減退 ... 「消費」と

「雇用」の悪循環

### 3.5 グローバル・コンペティション

## 5 平成不況の時代 グローバリゼーション

### 1. 資本主義とグローバリゼーション

#### 1.1 国境とは？

分権的地域国家から近代的統一国家へ 主権国家の空間的支配領域

ヒト・モノ・カネ・情報の移動を規制する壁

#### 1.2 資本主義の形成期

局地的市場圏から全国的統一市場へ

保護関税 航海条例 イギリス 1651-1849

#### 1.3 資本主義の確立期 最初のグローバル化

自由貿易

汽船の時代

電気通信の時代 1844年モースの電信、'51年ドーバー海峡、'65年大西洋

#### 1.4 資本主義の第1・第2変質期

帝国主義的世界分割 帝国(=本国・植民地・従属地域)の形成

社会主義圏と資本主義圏の分割 東西2圏の形成

先進国と後発国の分割 南北2圏の形成

### 2. グローバリゼーション

- 2.1 技術的前提 1 輸送手段
  - 船舶の高速化・大型化・専用船化
  - 航空機の発達 プロペラからジェットへ
- 2.2 技術的前提 2 情報関係手段
  - 真空管から半導体へ 銅線から光ファイバーへ アナログからデジタルへ
  - 地上波通信から衛星通信へ 固定器機からモバイル器機へ
  - 計算機からコンピュータへ 大型コンピュータからパソコンへ
  - ラジオからテレビへ
  - インターネット
- 2.3 東西2圏の溶解
  - ペレストロイカ 1985年 ゴルバチョフ書記長就任
  - ベルリンの壁崩壊 1989年 東西ドイツ再統一 1990年
  - ソ連邦の解体 1991年
  - 中国の改革開放 1979年 経済特別区設置
- 2.4 南北2圏の変容
  - アジアの4小龍 1950年代 香港、中継加工貿易型経済
  - 1965年 台湾、高雄輸出加工区
  - 1970年 韓国・シンガポール輸出加工区
  - 中国経済の発展 1993年 憲法改正 社会主義市場経済

### 3. 資本主義の第3変質期

- 3.1 20世紀資本主義の終焉
  - 福祉国家から市場原理主義へ
- 3.2 アメリカ資本主義のグローバル・スタンダード化
- 3.3 多国籍企業とグローバル・コンペティション

## 6 日本はどこに行くのか 技術革新・資源環境問題

### 1. 新しい技術革新の時代

- 1.1 ME革命
  - ロボット チャペック「robota」(1920)
  - NC工作機械 トランスファーマシン
  - ファクトリー・オートメーション FA オフィス・オートメーション OA
- 1.2 IT革命
  - コンピュータの進化 ハードウェア ソフトウェア
  - 通信手段の進化
  - インターネット
  - ネット市場 B to C B to B
- 1.3 バイオテクノロジー
  - 遺伝子二重螺旋構造 1953年ワトソン&クリック
  - 遺伝子工学・クローン技術 薬品・農牧業
- 1.4 ナノテクノロジー
  - カーボンフラーレン・カーボンナノチューブ
- 1.5 宇宙技術
  - 無重力工学

### 2. 資源問題

- 2.1 エネルギー資源
  - 薪炭 石炭・石油 生物資源 化石資源 再生可能資源 再生不能資源
  - 原子力発電 インプット<アウトプットか？
- 2.2 食糧資源

耕地面積 × 単位面積当たり生産量  
水産資源 経済水域 200 カイリ 1 カイリ = 1852m

### 2.3 水資源

総量は約 14 億 km<sup>3</sup> 淡水は総量の 2.7% 河川湖沼の表流水はその 0.35% 13 万 3000km<sup>3</sup>  
国際河川管理問題

## 3. 環境問題

### 3.1 エントロピー増大の法則

秩序から無秩序へ 不可逆的過程

### 3.2 環境と文明

メソポタミア文明と森林破壊 ギルガメッシュ王伝説 森の主フンババ殺し  
インダス文明と塩害

### 3.3 公害

産業革命期イギリスの煙害

銅山の公害 別子・足尾・日立

4 大公害事件 四日市ぜん息、イタイイタイ病、水俣病、新潟水俣病

### 3.4 都市ゴミ問題

### 3.5 地球温暖化問題

## むすび 市場原理主義の行方

### 1. 日本経済の行方

#### 1.1 平成不況

短期的な見通しは改善

#### 1.2 構造改革

中期的な活性化対策 官僚制の壁

#### 1.3 少子高齢化社会

長期的な対策の不在 年金改革

### 2. 市場の失敗

#### 2.1 アダム・スミスの Invisible hand 見えざる手の前提

Moral sentiments 道徳感情 Self interest 利己心 Sympathy 共感

#### 2.2 市場の最適配分機能

パレート最適

社会的厚生

#### 2.3 公共財と将来財

インフラストラクチャ

再生不能資源

#### 2.4 外部不経済

環境破壊

#### 2.5 独占・寡占

自由競争のパラドクス

#### 2.6 不均衡動学

ケインズ主義

### 3. 市場原理主義

#### 3.1 Welfare から Workfare へ

福祉国家から支援国家 Enabling State へ

#### 3.2 自由放任主義 laissez faire

マネタリズム

#### 3.3 世界市場

多国籍企業  
資本移動の自由

#### 4．限界を超えて

- 4．1 地球の限界  
「成長の限界」(1972年)から「限界を超えて」(1992年)へ
- 4．2 新しい経済社会を求めて  
Sustainable economy 持続可能な経済
- 4．3 賢い消費者に  
知足人